

平成30年度版 改善計画

学校名：甲府東高等学校

No.	項目	現状と課題	H31年度に目指すべき状態	①H30年度に実施する内容 ②H31年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	会議が多く、個人の業務に費やす時間が不足している。	会議を定時に始め、会議の終了時刻が設定できる。	① 会議は事前に資料を配布し、時間の短縮を図る。 ② 会議の廃止・統合、回数について検討し、5%縮減を図る。	
2	学校行事の負担軽減	前年踏襲の形で実施される学校行事が多い。平成29年度は土曜日に行事が多く負担感が増した。	行事が精選され、年間通してバランスよく配置される。	① アンケート等をもとに行事の教育的効果について確認する。 ② 学校行事の廃止・統合、回数について検討する。 週休日に実施している学校行事が平日実施できないかを検討する。	
3	校内組織の見直し	平成29年度より、分掌の統合を実施した。分掌は必要最小限のものになっている。	分掌や各種委員会が整理・統合され、職員も適正に配置される。	① 平成29年度実施した分掌統合の検証を行う。 ② 業務量の平準化を目指して、分掌の人員数、職員の適正配置について検討する。	
4	業務の効率化	校務が複雑化し、個人の業務量が増加している。 年度当初、業務内容の引き継ぎがスムーズに行われないことがある。	定時退校日には全員が定時に退校できる。	① 教材等の共有化に努め、教材作成に費やす時間を削減する。 ② 業務内容の引き継ぎ資料を作成し、次年度へのスムーズな引き継ぎを目指す。	
5	部活動の負担軽減	クラス数減、教員の高齢化・家庭の事情等により運動部の顧問が不足している。 部によって、参加する大会数が増加し、週休日に休むことができない。	平日1日、週休日1日を部活動休養日にすることができる。 多くの教員が部活動の指導にあたり、部活動の負担が特定の教員に集中しない。	① 運動部活動に係る活動方針の周知を図る。 各部顧問が、部活動休養日を適切に設定する。 協力体制を構築し個人の負担感を軽減する。 ② 参加する大会等の精選を行い、確実に生徒、教員とも部活動休養日が設定できるようにする。	
6	地域人材の活用	学校行事等においてPTAの協力はお願いしているが、多忙化改善のための地域人材の活用は行われていない。	多忙化改善に有効な地域人材の活用が行われている。	① PTAと連携して、人材の発掘を図る。 ② 多忙化改善に有効な地域人材の活用について検討する。	
7	(学校独自の項目)	「きずなの日」の趣旨が職員に周知されていない。 8時過ぎまで残り残業する職員がいる。	ワーク・ライフ・バランスを意識した取組ができる。	① 「きずなの日」の周知を図り、生徒とふれあう時間、家族とふれあう時間を確保する。 ② 教職員の勤務実態を把握し、ワーク・ライフ・バランス推進の具体的なマネジメントを検討する。	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。